

## ■ 市長から市民のみなさんへ

市長 白井 博文



### ■ 今年 1 年を振り返って

今年もお世話になりました。

お陰さまで本市のまちづくりは、苦しかった財政危機を総力戦で乗り越え、合併特例債を活用したまちの基盤整備という第二段階に進むことができました。小中学校の耐震化、公民館や市民病院、ごみ処理施設など、老朽化し寿命の尽きかけた公共施設がひしめき、それらの整備が待ったなしの状態です。幸い財政指数も少しずつ良くなったことから、合併の財政支援措置である合併特例債（市の借金ですが、年賦償還の都度、その 7 割を国が肩代わりしてくれる約 150 億円の起債枠）を活用しつつ、まちづくりに不可欠な基盤だけは整備を急ぎたいと考えています。財政が多少とも好転すると、あれもこれもと要望が相継ぎますが、もとより事業は、市民にとって、このまちにとって、必要・不可欠なものに限定する考えです。なお、厚狭川の氾濫やこの度の東日本大震災を教訓に、災害に強いまちづくりの視点も忘れないよう、自分に言い聞かせています。

### ■ 資源ごみなどについて

広報「さんようおのだ」毎月 15 日号の「ごみ出しワンポイント」にも載せていますが、市民のみなさんの資源ごみ分別のお陰で、資源ごみの売却収入は 1 年に約 5 千万円を超えるまでになりました。ありがとうございます。市の収入として大切にに使わせていただきます。

また、みなさんが体調を崩したとき、ぜひ、かかりつけの病院や医院で診てもらってほしいこと（病院や医院を替えないで！）、医薬品は「ジェネリック」と指定してほしいこと、これらは繰り返しお願いしているところです。特に国民健康保険についてですが、医療費の負担が年ごとに増え、平成 22 年度は 52 億 9 千万円にのぼり本市の財政を圧迫しています。市民のみなさんのちょっとしたご協力で、目に見えて改善するものと信じています。どうぞよろしくお願いいたします。

私も、時々東京・広島・山口などに出張しますが、その際には経費節減のため随行者は付けず、一人で出掛けています。「随行者なし」は、県下では山陽小野田市の市長だけですが、全国市長会に出掛けると、ごく少数というわけでもなさそうです。些細なことですが、市民のみなさんに日ごろ何かと市政への協力をお願いしていることを思いますと、随行者を連れて行くなんで「もったいない」、そんな気持ちになってしまいます。会場で受け取る資料は、ボリューム・重さともにややこたえますが、まだまだ大丈夫です。

対話の日

12月22日(木) 19:00 ~  
青年の家

1月26日(木) 19:00 ~  
本山公民館